

共同研究「民事法学の現在・将来を考える」 2023年度活動報告

研究会代表 大 木 満

1 活動概要

本研究会は、本年度が2年目の最終年であった。基本的に共同研究「最新民事判例研究会」と共同開催（オンライン開催）で行った。そのうち「民事法学の現在・将来を考える」の活動部分としては6回開催・8件の報告があった。本研究会では、民事法学上の現在および将来に関する問題等の中から、各人の関心にしたい報告してもらった。その上で、参加者による自由・闊達な討議を行い、民事法が直面している問題の状況や関連諸法の理解を相互に深めていった。具体的な内容（報告者と報告テーマ）については下記3を参照されたい。それぞれの専門分野（民法・商法・民事手続法など）や比較法の視点から多様な意見や問題点の指摘等がなされ、2023年度も意義のある共同研究会となった。また2023年度はコロナ感染症の状況も落ち着いたので、2月末には合宿で集中して研究会を行うことができた。

2 共同研究者（計18名）

今 尾 真（本学法学部、民法）
伊 室 亜希子（本学法学部、民法）
大 木 満（本学法学部、民法）
大 野 武（本学法学部、民法）
来住野 究（本学法学部、商法）
倉 重 八千代（本学法学部、民法）
黒 田 美亜紀（本学法学部、民法）
近 藤 隆 司（本学法学部、民事手続法）
新 津 和 典（本学法学部、商法）
畑 宏 樹（本学法学部、民事手続法）
波多江 久美子（本学法学部、民法・民事手続法）
福 田 清 明（本学法学部、民法）
加賀山 茂（本学名誉教授、民法）
角 紀代恵（本学客員教授、民法）
黄 瑞 宜（台湾・中央警察大学法律学系、民事法）
竹 田 智 志（本学非常勤講師、民法）
山 里 盛 文（高千穂大学、民法・消費者法）
山 本 研（早稲田大学法学学術院、民事手続法）

3 報告者・報告テーマ一覧

【第1回】2023年5月31日（水）

第1報告

報告者：福田清明先生（明治学院大学法学部教授）

テーマ：「債務の存在を争いつつ行った弁済の受領の催告について、債務の本旨に従った弁済の提供と認められた事例（東京地判令和3年8月30日判時2522号112頁）」

〔成果公表〕速報判例解説vol.33 新・判例解説Watch〔2023年10月〕63頁－66頁

第2報告

報告者：波多江久美子先生（明治学院大学法学部教授）

テーマ：「自動車損害賠償保障法3条をめぐる諸問題から一運転補助者と他人性一」

〔成果公表〕長井長信先生古稀記念『消費社会のこれからと法』〔信山社・2024年1月〕243頁－267頁

【第2回】2023年7月5日（水）

報告者：竹田智志先生（明治学院大学非常勤講師）

テーマ：「わが国における区分所有のかたち？ 我妻榮関係文書第三部（J-DAC）を手掛かりに？」

〔成果公表〕鎌野邦樹先生古稀記念論文集『マンション区分所有法の課題と展開』〔日本評論社・2023年10月〕235頁－251頁

【第3回】2023年7月26日（水）

報告者：今尾真先生（明治学院大学法学部教授）

テーマ：「物上代位とはいかなるものか—判例の展開過程から見えてくるもの—」

〔成果公表〕法学志林121巻1号〔2023年10月〕87頁－132頁

【第4回】2023年11月29日（水）

第1報告

報告者：倉重八千代先生（明治学院大学法学部准教授）

テーマ：「事業者向けファクタリングの法的側面について～民法および貸金三法からのアプローチ」

〔成果公表〕法学研究116号〔2024年1月〕59頁－119頁

第2報告

報告者：山本研先生（早稲田大学法務研究科教授）

テーマ：「倒産手続における実体関係の変容、および倒産実体法における要件事実」

〔成果公表〕田村伸子編『倒産法と要件事実』〔日本評論社・2024年3月〕6頁－27頁

【第5回】2024年2月22日（木）

報告者：大木満先生（明治学院大学法学部教授）

テーマ：「スーパーマーケットのレジ前での転倒事故と安全配慮義務等について（東京高判令和3年8月4日判タ1501号90頁）」

〔成果公表〕 法科研年報40号に掲載

【第6回】2024年3月22日（金）

報告者：黄瑞宜先生（中央警察大学法律学系助理教授）

テーマ：「台湾におけるビジネスと人権に関する国家行動計画」

〔成果公表〕 国際取引法学会学会誌10号に掲載予定